

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第15号 2006年10月

「ほたるの里」を訪ねてみませんか

八千代市ほたるの里づくり実行委員長

加藤 賢三

城橋から新川沿いにやちよ道の駅方向に歩いていくと、^{ちっしみず}乳清水のそばの水田地帯に、柳を中心とした樹木の繁った一角として八千代市「ほたるの里」を見ることができます。ここの基礎的な環境整備は平成9年度に終え、試験的に八千代環境フォーラムを中心として子供エコクラブなどが加わり、市民団体と市との「グラウンドワーク」方式で始めました。翌年から実行委員会が設立され、今年で9年目を迎えています。ここでは、カワセミなどかわいい生き物が見られますが、なぜか里の池にはアオミドロ、ザリガニ、さらにウシガエルが異常繁殖しています。いろいろな生き物がいるのはとてもいいことですが、ザリガニやウシガエルがいると、ホタル

の生育がとても悪くなります。

今年の、里のホタルは、10匹以下しか見られませんでした。ここ数年間はヘイケボタルの自生を願い、飼育をしませんでしたが、来年に向けて飼育を検討しています。先進地に学ぶとして、11月26日には、横須賀ほたるの会の活動現場をバス見学します(スケジュールをご覧ください)。また、11月19日には、「グラウンドワーク」という、市民、企業、行政の協働で里づくりを始めたときに指導していただいた渡辺豊博さんが、「第2回グラウンドワークによるまちづくりフォーラム」(11月1日号広報やちよ)に来てくれることになりました。これも、今後のほたるの里づくりにとても参考になると思います。

里のみどころ (10~12月のころ)

稲刈りの済んだ、たんぼの先に麦丸、桑納の斜面林の木々が色づき始めます。

澄んだ空はどこまでも高く広がります。

里では、チガヤが黄色くなり、コナラ、ケヤキ、カツラ、イチョウの葉も色づいてきます。

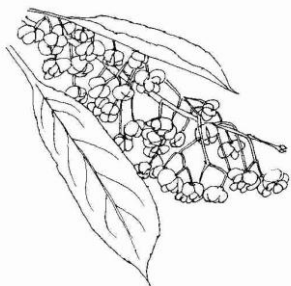
マユミ、ムラサキシキブ、シラカシ、スタジイ、ハンノキ、ノイバラには、いろいろな色の実がなっています。

草むらでは、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、エンマコオロギ、イナゴたちが飛びはねています。

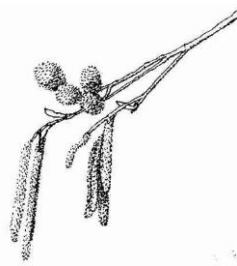
水の中では、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエルが、冬眠の準備を始めます。

虫の音が静かになるころ、里は冬の景色へと移っていきます。

(くわはた)



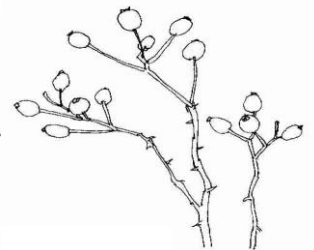
マユミ



ハンノキ



ムラサキシキブ



ノイバラ

(もり)

谷津ものがたり

自然観察指導員 大山 暁子

里山として守りたい勝田谷津

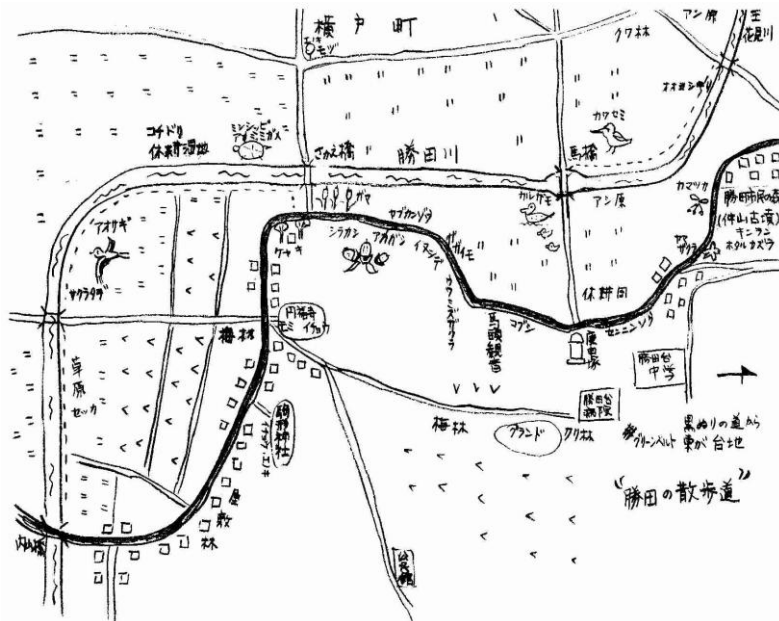
私が毎朝のように散歩する勝田の里山を紹介いたします。南北に流れる勝田川を中心にその両側に水田、さらにその両側に林と村落という自然と人間のくらしが折りあっているところです。林にあまり手が入られず、繁りすぎて斜面林と解りにくい、上は台地、下は水田、川と低地になっています。地図を見ると斜面の上の勝田台中学校あたりが 24~25m、

林の等高線が混みあったところに切り込むような円福寺や駒形神社が 15m位、次に村落と畑が 12m、川に近い水田は 8~10m というように典型的な段丘地形です。対岸の千葉市横戸町も国道 16 号がせまっていますが、ほぼ同じ地形です。1 万年前に黒潮が日本列島をはさみこむように流れはじめると、その前の氷河期に氷にけ

ずられた V 字谷が温暖化で海面が上昇し粘土層が堆積し、谷を埋めます。海が後退し、沼や湿原が出来るという海進、海退を経て今の下総台地と谷津からなる八千代の地形が出来たそうです。台地上に縄文人が住みはじめたのが 5 千年前、勝田市民の森にある仲山古墳群をはじめ、この近辺にはいくつも遺跡があります。台地のへりに多いということで斜面の上に縄文人を思い浮かべ、湿地に稲を植える弥生人を想像できる散歩道なんて自慢できるかも。道ぞいにアカガシ、イヌシデなど高木、次にシロダモ、アオキなど、キヅタ、ジャノヒゲなどが地表近くにと段をなす緑の中であちこちにクワの大木があったり、また水田のフチにクワ林があるのが気になっていました。明治 20 年頃から戦前まで養蚕が村の貴重な現金収入としてさかんだったなごりのようです。勝田の獅子舞も江戸時代は 9 月 1 日、明治には養蚕の忙しい時期をはずし 9 月 11 日になり、それが衰退すると早稲が主流の稲刈に合わせて 9 月 1 日に戻ったそうです。



写真 勝田の獅子舞 (提供:八千代市社会教育課)



そして今は兼業農家の休日に合わせてか 9 月の第 1 日曜日になりました。歴史をたどると、縄

文から戦前位までは時間がゆったり感じられるが、昭和 39 年から勝田台団地が造成されはじめると一気に変化が速まる。台地上の住宅地化で地面はコンクリートに覆われ、斜面からの湧水が涸れて地下水の水位は下がり、生活排水が勝田川を

汚しはじめたのです。土地改良によるコンクリート護岸も魚や水鳥の居心を悪くしています。40 年たち、コンクリートもゆるみ、土が露出して良い具合にカワセミが巣穴を作れるようになりましたが、今また、馬橋とさかえ橋が長い橋にかけかえられ、いずれ、川幅も広げる計画になるということです。多自然型護岸で整備されるというのが工事期間中が心配です。我流の記録だが、年間を通して 40 種を越える水辺の鳥、林の鳥は重機を使う工事を我慢してくれるでしょうか。カルガモ、ゴイサギの幼鳥は、これからも見る事ができるでしょうか。ホトトギスの声は毎年聞き続けられるでしょうか。湿地のサクラタデ、土手のヤブカンゾウも心配です。水田を冠水から守り、動物も植物も共存できるきれいな水の流れになるよう祈らずにはられません。林もこれ以上、住宅や道路のために削りとられないように。いつまでも、人と田んぼ、川、林が守り合う里山が生き続けるように。

各地からのホタルだより

船橋芝山高校「芝山湿地」のヘイケボタル、そして北方ミニ自然園におけるヘイケボタル復活大作戦

緑のみずがき隊（千葉県立船橋芝山高校） 佐野 郷美

今年転勤した船橋芝山高校（船橋市芝山7丁目）には、敷地の北側に「芝山湿地」と呼んでいる場所がある。その東側には湿地に接して船橋市の保存樹林があって、その裾から湧き水が流れ出ている。湿地はそれを水源にしていて、私が転勤してきたときには、この場所に木道、水路、池、水田がつけられていた。理科の先生方が中心になって里山的な環境に復元したのだ。かつてこの場所は水田が広がる谷の一角でヘイケボタルがたくさんいたというので、ヘイケボタルの幼虫を3年にわたり放流し、現在では7月20日前後の最盛期には湿地の木道を一周すると30～40匹のヘイケボタルを観察することができるようになった。今年も生徒と教職員、及びその家族を対象に3度の鑑賞会を行い、毎回20～30人の参加者がホタルの淡い光を楽しんだ。その他、この湿地にはサワガニ、プラナリア、オニヤンマ、オオシオカラトンボ、ニホンアカガエル等の生物が棲息している。ヘイケボタルと同様にカワニナ、メダカもこの湿地に導入され定着している。

一方、私が以前からかかわっている市川市北方4丁目の「北方ミニ自然園」は、休耕田がさらに放置されてヨシ原になっていた場所であったが、地権者の了解を得て1998年にわずかな湧水を活かして水田、池、湿地、水路、東屋を整備した。その結果、わずかに生き延びていたヘイケボタルが1999年、2000年、2001年と増加したが、その後激減し現在は全く姿が見えなくなってしまった。



アメリカザリガニやウシガエルの捕食が最大の原因と考えているが、それらの外来種が入り込みやすい環境にしてしまったことについては大いに反省しているところである。そこで、「ヘイケボタル復活作戦」と称して、今年環境教育プログラム「みどりの寺子屋」の中で再びミニ自然園をヘイケボタルが飛び交う水辺に復元しようとしている。市川市立自然博物館の協力を得て実施しており、7月に自然博物館と大町自然観察園を会場に、ヘイケボタルの暮らしと生息環境について学び、ホタル観賞をしながらホタルが生息している環境がどのようなところなのかをしっかりと把握した。また、8月にはミニ自然園を会場にして、今のミニ自然園にどのような環境を回復する必要があるかを検討した後、参加者に幼虫の里親になってくれるようお願いして（Oyster reef）幼虫飼育を開始していただいた。今後、ミニ自然園の環境に手を入れながら、来春を目処に飼育していただいている幼虫をミニ自然園に放流し、徐々にホタルが飛び交う水辺へ復元していきたいと考えている。



写真：芝山湿地

10・11・12月のスケジュール

✿ 学 習 会 ✿

色づいた秋の実がなる新川沿いの里山を歩きながら、七百余所神社まで足を運び、社寺林を観察したり、どんぐりを拾ったりしませんか。

日 時：10月21日（土）

午前9時30分から※雨天決行

集合場所：村上橋脇 浅間下駐車場

講 師：原 正利氏

（千葉県立中央博物館環境科学研究科科長）

持 ち 物：飲み物など

参 加 費：無 料

対 象：ホタルメイトもしくはメイト希望者

申し込み：電話で事務局へ。

✿ 見 学 会 ✿

毎年、環境保護活動の活発な団体への施設見学を企画しています。今回は、横須賀市野比にある横須賀ほたるの会が保護しているホタルの自生地を見学します。

日 時：11月26日（日）

午前8時45分から午後5時まで ※雨天決行

集合場所：八千代市役所玄関前

午前8時30分集合

対 象：ホタルメイトもしくはメイト希望者

参 加 費：500円

応募締め切り：11月15日（水）必着

応 募：参加希望の方は事務局へ電話、またはFAXでお申し込みください。FAXでお申し込みの際は、お名前、ご住所、ご連絡先、参加人数をご記入ください。

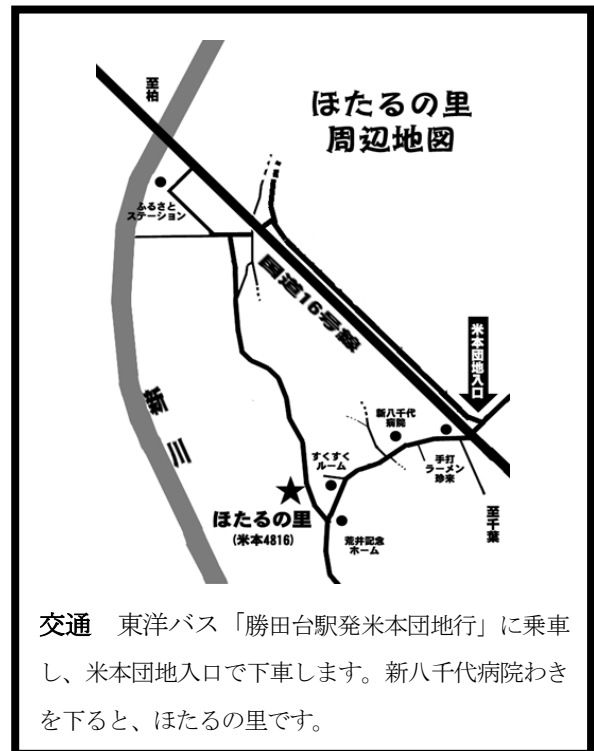
注 意：バスの都合上、応募多数の場合には抽選とさせていただきますので、ご了承ください。なお、結果については後日ご連絡いたします。

ナイトウォッチング報告

7月1日（土）に、423名の参加者のもと、ほたるの里づくり実行委員会主催のホタルの観察会（ナイトウォッチング）が行われました。午後7時から開催し、午後8時ごろに里に到着したところ、ホタルの飛び交う姿が見られ、歓声が沸きあがっていました。

しかし、今年のナイトウォッチングでは、確認できたホタルは4～5匹と昨年よりも数が少なく、毎年、減少してきてしまっています。

このままでは、ほたるの里からホタルがいなくなってしまうので、何か対策を考える時期なのではないかと思いました。



交通 東洋バス「勝田台駅発米本団地行」に乗車し、米本団地入口で下車します。新八千代病院わきを下ると、ほたるの里です。

ホタルメイトになりませんか？

| | | |
|-----|------|--------|
| 年会費 | 個人 | 500円 |
| | 市民団体 | 2,000円 |
| | 事業所 | 2,000円 |

[ほたるの里の連絡先]

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyoku2@city.yachiyo.chiba.jp

[編集]

広報部会 事務局